

地球惑星科学委員会 IUGG 分科会 IAHS 小委員会（第 26 期・第 1 回）

議事要旨

日 時：令和 7 年 10 月 22 日（水）16：30 ～ 17：35

会 場：オンライン会議

出席者（五十音順）：大手委員、沖委員、風間委員、小池委員、榊原委員、杉田委員、
立川委員、谷口委員、辻村委員、檜山委員、堀田委員（以上 11 名）

議題等：

（1）委員長等の選出について（資料 1）

互選の結果、辻村委員を委員長とすることに決定した。

（2）IAHS2025 India について（資料 2）

2025 年 10 月 5 日から 10 日まで、インドのルールキーにおいて開催された IAHS 2025 India に参加した、辻村委員長、沖委員、榊原委員から報告がなされ、日本からの参加が少なかったこと（全参加者 250 名程度の内、日本からの参加は 8 名、また中国からの参加者が無し）、インドの若手研究者との意見交換機会が有意義であったこと、サイドイベントが豊富で有意義であったこと、来年 8 月に福岡で行われる予定の AOGS 2026 にサルバトーレ会長が出席予定であること等が紹介された。

（3）ユネスコ政府間水文学計画（IHP）50 周年記念シンポジウムについて（資料 3）

2025 年 3 月 26 日に東京大学山上会館において開催された同シンポジウム「水文学の最先端と変化する世界における水の安全保障への貢献」について、辻村委員長、沖委員より報告がなされた。このシンポジウムを契機に策定された提言文「越境する水循環インテリジェンス」について、今後の公開に向けた進捗等に関し小池委員から説明がなされた。本提言文については、ベトナム・ハノイにおいて開催されている IHP-RSC 会合において、京都大学・佐山教授により紹介された旨、小池委員より発言があった。

（4）IAHS-UNESCO-WHO International Hydrology Prize への推薦について（資料 4）

辻村委員長より、IAHS-UNESCO-WHO International Hydrology Prize の Volker Medal 2026 受賞候補者として、IAHS 小委員会（IAHS 日本国内委員会）から小池委員を推薦したい旨提案があり、全会一致で承認された。

（5）Hydrological Research Letters 誌運営委員会について（資料 5）

辻村委員長より、2025 年 5 月 12 日に開催された HRL 誌運営委員会の概要に関し報告がなされた。

（6）IUGG 分科会について（資料 6）

辻村委員長より、IUGG 分科会における最近の検討事項等に関し報告がなされ、地球惑星科学委員会傘下の小委員会が非常に多いことから、IUGG 分科会においても小委

員会を整理できないか（小委員会を減らすことができないか）、各小委員会に検討要請があり、IAHS 小委員会として意見交換したい旨、説明があった。IUGG 分科会傘下のいくつかの小委員会には対応学会が単一ではっきりしているものもあり、こうした小委員会は廃止の方向で検討がなされていること、地球惑星科学委員会 IUGS 分科会でも同様の議論があるが日本地下水学会のように複数の分科会に関連している学会もあり、水文関連学会と IAHS 小委員会との対応は複雑であること、可能性として日本地球惑星科学連合（JpGU）と IAHS 小委員会との対応が考えられるが、JpGU の大気水圏科学セクションは海洋等の分野も入っており、IAHS 対応には適切ではないこと、IAHS 小委員会は水文関連学会の緩やかなハブとしての役割があること等、意見交換がなされた。以上の議論をもとに、IAHS 小委員会としては当面現状の形態を維持したい旨を IUGG 分科会に対し回答することを決定した。ただし、IAHS 小委員会としてのプレゼンスを明示的に示すため、表彰推薦等はもちろんのこと、その他の取組についても今後検討・推進していく。

（7）議事要旨の提出に関する委員長一任について

委員長より提案され、承認された。

（8）小委員会委員間のメールアドレス共有について

委員長より提案され、承認された。

（9）その他

特になし。